

山口県立萩美術館・浦上記念館年報

平成27年度

ANNUAL REPORT
2015
HAGI URAGAMI MUSEUM

山口県立萩美術館・浦上記念館年報
平成27年度

目 次

	頁
I 概 要	
1 施設概要 -----	1
2 事業概要 -----	1
II 事 業	
1 展覧会事業	
展覧会一覧 -----	2
(1) 特別展示 -----	3
(2) 小企画展示・特集展示 -----	7
(3) 普通展示 -----	8
(4) 特選鑑賞室展示 -----	13
(5) 和風展示室展示 -----	14
(6) 貸館展示 -----	15
2 教育普及事業	
(1) 記念講演会 -----	16
(2) やまぐち美術館力発信事業 -----	17
(3) 地域派遣型アウトリーチ活動 -----	19
(4) 各種イベント -----	20
(5) ギャラリー・トーク -----	22
(6) 季刊誌「萩」 -----	23
(7) 博物館実習 -----	24
3 館蔵品貸出利用状況 -----	25
4 寄贈作品 -----	27
5 購入作品 -----	28
III 入 館 者 -----	29
IV 組 織 -----	29

I 概要

山口県立萩美術館・浦上記念館の概要

山口県立萩美術館・浦上記念館は、萩市出身の実業家浦上敏朗氏が収集した浮世絵、東洋陶磁などの寄贈を契機に平成8年（1996年）10月に開館した。

また、平成22年（2010年）9月には、本県の文化資源であり400年の歴史を誇る「萩焼」をはじめとする陶芸の振興を目的に「陶芸館」を開館し、「浮世絵」、「東洋陶磁」、「陶芸」の3つのジャンルを中心とした美術館活動を行っている。

浮世絵版画類約5,400件、東洋陶磁器類約560件、陶芸・工芸作品約610件を所蔵(平成28年3月現在)

1 施設概要

(1)所在地 山口県萩市平安古町586-1

(2)所管及び管理

設置主体 山口県総合企画部スポーツ・文化局文化振興課

管理運営 指定管理者 サントリーパブリシティサービス(株)

(3)規模及び建物概要

区分	本館	陶芸館
建物構造	RC造 B1/2F	SRC, RC造 B1/2F
敷地面積	11,747.5㎡	2,515.0㎡
建築面積	3,194.1㎡	1,450.1㎡
延床面積	5,177.8㎡	2,417.9㎡
展示室面積	1,066.6㎡	803.8㎡
工期	H 6.10.21~H 8.3.27	H20.10.14~H22.3.23
開館	H 8.10.14	H22.9.11
設計・監理	丹下健三・都市・建築設計研究所	金子信建築事務所

2 事業概要

・本館は、山口県の北浦地域において、新しい地域文化振興の発信拠点にふさわしい、浮世絵と東洋陶磁、陶芸を核とした高い専門性と機能を有する特色ある美術館として多様な活動を展開する。

・展示活動としては、県民の多様なニーズに応えるため、浮世絵と東洋陶磁、陶芸の常設展を軸に、関連のある企画展(特別展示)を年間数回開催する。

・普及教育活動としては、特別展示に関連する「講演会」の開催や主に児童を対象としたワークショップ、美術館まちなかアート事業(平成22年度からは指定管理者に業務委託)などを積極的に行う。

・さらに、調査収集事業も継続的に実施し、有効活用を図る。

II 事業

1 展覧会事業

〔一覧〕

展覧会の種類	展覧会名
特別展示	「凶変り」大皿の世界 伊万里染付の美
	木版画家 立原位貫—江戸の浮世絵に真似ぶ—
	青磁のいま～受け継がれた技と美 南宋から現代まで～
	シリーズ山東文物9 中華の服飾芸術
普通展示 (浮世絵)	小林清親—光線画の時代
	橋口五葉
	第23回世界スカウトジャンボリー開催記念 やきものと浮世絵に遊ぶ
	戯画展
	月岡芳年 月百姿Ⅰ
	月岡芳年 月百姿Ⅱ
	月岡芳年 月百姿Ⅲ
	春景色 豊原国周の美人画
普通展示 (東洋陶磁)	古萩
	第23回世界スカウトジャンボリー開催記念 やきものと浮世絵に遊ぶ
	緑釉陶器
	朝鮮時代のやきもの
普通展示 (陶芸) (陶芸・工芸)	素材のかたち
	陶—生命の賛歌
	萩焼の現代
	山口県無形文化財の工芸—萩焼・赤間硯・金工—
	佐藤典克展—現在形の陶芸萩大賞展Ⅲ 大賞受賞者展
	茶陶萩—伝統の革新—
特選鑑賞室	歌川広重 名所江戸百景 堀切の花菖蒲
	歌川広重 名所江戸百景 駒形堂吾孀橋
	歌川広重 名所江戸百景 亀戸天神境内
	二代歌川広重 名所江戸百景 赤坂桐畑雨中夕けい
	歌川広重 名所江戸百景 両国花火
	歌川広重 名所江戸百景 猿わか町よるの景
	歌川広重 名所江戸百景 よし原日本堤
	歌川広重 名所江戸百景 浅草田甫西の町詣
	歌川広重 名所江戸百景 深川洲崎十万坪
	歌川広重 名所江戸百景 日本橋雪晴
	歌川広重 名所江戸百景 廊中東雲
	歌川広重 名所江戸百景 隅田川水神の森真崎
和風展示室	井上雅之の茶室 初形より—花型
貸館展示	第38回山口伝統工芸展
	2015年NHK大河ドラマ特別展「花燃ゆ」

Ⅱ > I > (1) 特別展示

「図変り」大皿の世界 伊万里染付の美

日本では江戸初期から肥前有田で、中国の青花磁器を模した白地に青色の図柄を表した染付が作られ始めます。その多くが近くの伊万里港から出荷されたことから伊万里焼と呼ばれ全国各地に流通し、江戸後期には直径 40cm を超える大皿が多く作られました。豊かな図柄が魅せる「図変り」大皿をたっぷりと紹介します。

主催	伊万里染付の美展萩実行委員会(山口県立萩美術館・浦上記念館、毎日新聞社、tys テレビ山口)
後援	山口県教育委員会、萩市
特別協力	エフエム山口、世界文化社
会期	6月6日(土)～8月16日(日) 66日間
会場	本館2階第6,5,4,3展示室
出品点数	139点
観覧者数	6,704人



関連行事

- 記念講演会「伊万里染付大皿の魅力をたずねて」
日時 6月6日(土) 13:30～15:00
場所 講座室
講師 荒川正明氏(学習院大学教授、本展監修者)
- 本格的!染付!「染付体験」
日時 7月18日(土) ①9:30～12:00 ②13:30～16:00
場所 陶芸館多目的室
講師 松尾優子氏(日本工芸会正会員、萩焼窯元松尾藻風窯)
- ギャラリーツアー(学芸員による展示解説)
日時 毎週日曜日 11:00～12:00

木版画家 立原位貫 一江戸の浮世絵に真似ぶ

立原位貫(1951～2015)は、浮世絵版画に使われた紙や絵具などの画材を職人の協力のもとに再現し、独学で習得した高い彫や摺の技術を駆使して復刻する唯一の木版画家です。

本展では、伝統的な画材の紹介や復刻作品と原画の浮世絵を並べて鑑賞する展示に加え、オリジナルの版画作品もご覧いただけます。

主催	立原位貫展実行委員会(山口県立萩美術館・浦上記念館、朝日新聞社、yab 山口朝日放送)
後援	山口県教育委員会、萩市
特別協力	エフエム山口
会期	8月29日(土)～9月27日(日) 29日間
会場	本館2階第6,5,4,3展示室
出品点数	94点
観覧者数	3,146人

関連行事

○記念講演会「立原位貫の浮世絵の復刻」

日時 8月29日(土)14:00～15:30

場所 講座室

講師 浅野秀剛氏(大和文華館館長、あべのハルカス美術館館長)

○伝統画材ワークショップ

司会 降旗千賀子氏(目黒区美術館学芸係長)

膠 日時 8月30日(日)9:30～12:00

講師 上田邦介氏(絵具屋三吉代表)

富澤千砂子氏(六法美術代表)

和紙 日時 8月30日(日)13:30～15:30

講師 池加津夫氏(土佐和紙)

青色の色料 藍・青花

日時 8月31日(月)9:30～12:00

講師 森芳範氏(本藍染紺九)

落合雪野氏(龍谷大学教授)

会場 いずれも多目的室

定員 いずれも30名(事前申込、先着順)

○ギャラリーツアー(学芸員による展示解説)

日時 9月6日(日)、9月13日(日)、9月20日(日)、9月27日(日)

11:00～12:00



青磁のいま ～受け継がれた技と美 南宋から現代まで～

碧玉への憧れから生まれたとされる青磁。ほのかな潤沢を帯びた青や緑の釉色で魅せる造形美は、古来多くの人々に愛でられ、また作り手の表現意欲を掻き立ててきました。本展では、中国・南宋時代の名品から、近代陶芸史に名を残す物故作家の優品、さらには人間国宝や若手作家の最新作まで、青磁の技と美を通史的に紹介します。

主催 青磁のいま展実行委員会(山口県立萩美術館・浦上記念館、読売新聞社、KRY 山口放送)、NHK プラネット中国

後援 山口県教育委員会、萩市

会期 10月10日(土)～11月29日(日) 48日間

会場 本館2階第6,5,4,3展示室

出品点数 118点

観覧者数 4,699人



関連行事

○記念鼎談「青磁に魅せられて」

日時 10月10日(土)13:30～15:00

場所 講座室

講師 唐澤昌宏氏(東京国立近代美術館工芸課長、本展監修者)

中島宏氏(重要無形文化財「青磁」の保持者〔人間国宝〕、本展出品者)

高垣篤氏(本展出品者)

○アーティスト・トーク「中野月白瓷について」

日時 11月1日(日)13:00～15:00

場所 講座室、本館2階展示室

講師 福島善三氏(本展出品者)

○ギャラリーツアー(学芸員による展示解説)

日時 10月18日(日)、25日(日)、11月15日(日)、22日(日)

各回 11:00～12:00

○わたしの“ちよるる”一鑄込み成形と上絵付け

日時 10月17日(土)、11月21日(土)いずれも①10:00～11:30、②13:30～15:00

場所 陶芸館多目的室

○月夜のナイトミュージアム

日時 10月10日(土)、11日(日)いずれも 18:30～20:00

シリーズ山東文物9 中華の服飾芸術

服飾品は、人の心象や思想の具現であると同時に、流行や制度として時代精神を表象しています。今回は、漢族の伝統的服制を継承した明代の大らかで洒脱な衣装や、気高く厳格な美質が求められた清代における満族衣装由来の服装を中心に、衣服の造形や染織、装飾品などを通して、中国における装いの美意識を探ります。

主催 中華の服飾芸術展実行委員会(山口県立萩美術館・浦上記念館、朝日新聞社、yab 山口朝日放送)、山東省文物局
後援 山口県教育委員会、萩市、山口県日中友好協会
協力機関 山東博物館、エフエム山口

会期 12月12日(土)～2016年1月17日(日) 31日間
会場 本館2階第6,5,4,3展示室
出品点数 51点
観覧者数 2,606人



関連行事

○記念講演会「明清服飾のはなやぎ一彩と繡のコスモロジー」

日時 12月12日(土)13:30～15:00

場所 講座室

講師 李娉氏(山東博物館書画部館員)

○ギャラリートツアー(学芸員による展示解説)

日時 12月20日(日)、27日(日)、1月3日(日)、10日(日)、17日(日)
11:00～12:00

○中華を着てみよう!コスプレ写真撮影コーナー

日時 会期中の開館日全日

場所 エントランス

Ⅱ > 1 > (2) 小企画展示・特集展示

特集展示 第23回世界スカウトジャンボリー開催記念

やきものと浮世絵に遊ぶ 浮世絵編

浮世絵は世界的に知られている日本文化の一つですが、江戸の人々にとっては娯楽でもあった歌舞伎、吉原、相撲などを題材にして多くの作品が描かれてきました。

今回は浮世絵にはどのような分野の作品があるのか、浮世絵版画がどのように変わっていたのか、どのような摺の表現がされているのか。遊びの視点も含めて浮世絵版画について、歴史の流れから、版画の大きさ、題材、表現の仕方など、最も基本的なことを知ってもらう展示となっています。

会期 平成27年(2015)7月7日(火)～8月16日(日)

会場 本館1階 第1展示室

出品点数 31点

特集展示

第23回世界スカウトジャンボリー開催記念
やきものと浮世絵に遊ぶ 浮世絵編

展示期間 平成27年(2015)7月7日(火)～8月16日(日)



浮世絵は世界的に知られている日本文化の一つですが、江戸の人々にとっては娯楽でもあった歌舞伎、吉原、相撲などを題材にして多くの作品が描かれてきました。今回は浮世絵にはどのような分野の作品があるのか、浮世絵版画がどのように変わっていたのか、どのような摺の表現がされているのか、遊びの視点も含めて浮世絵版画について、歴史の流れから、版画の大きさ、題材、表現の仕方など、最も基本的なことを知ってもらう展示となっています。

Ukiyoe is one of the Japanese culture known worldwide. These many works have been shown by using Kabuki, Yoshiwara, and Sumo Wrestling which were people's entertainment in Edo as a leisure material. What kind of field drew a work of ukiyoe have? However particular by the ukiyoe print? What kind of print is expressed? It's the exhibition which finds the size of the print and the manner of the subject and the expression from their from a flow of history about an ukiyoe print including the viewpoint of the art.

特集展示 第23回世界スカウトジャンボリー開催記念

やきものと浮世絵に遊ぶ やきもの編

やきものは、それが制作された地域の自然や歴史の活きた実状をよく表しています。とくに東アジアでは、人々の暮らしと深く結びついたやきものづくりが盛んにおこなわれ、形態や装飾に生活感情を豊かに映し出した多様なやきもの文化が花開いてきました。このたびは、人類文化の根底にある美的感性を培ってきた「遊び」の視座から、有り余る生命力の過剰を放出するものとして、「たわむれ」、「わらい」、「おどけ」や「ひょうげ」などが表現された作品を紹介いたします。生きる力の源泉として人間が心の奥深くに抱き続けてきた、創造的機能としての「遊び」の精神をやきもののかたちでご鑑賞ください。

会期 平成27年(2015)7月7日(火)～8月16日(日)

会場 本館1階 第2展示室

出品点数 32点

特集展示

第23回世界スカウトジャンボリー開催記念
やきものと浮世絵に遊ぶ やきもの編

展示期間 平成27年(2015)7月7日(火)～8月16日(日)



やきものは、それが制作された地域の自然や歴史の活きた実状をよく表しています。とくに東アジアでは、人々の暮らしと深く結びついたやきものづくりが盛んにおこなわれ、形態や装飾に生活感情を豊かに映し出した多様なやきもの文化が花開いてきました。このたびは、人類文化の根底にある美的感性を培ってきた「遊び」の視座から、有り余る生命力の過剰を放出するものとして、「たわむれ」、「わらい」、「おどけ」や「ひょうげ」などが表現された作品を紹介いたします。生きる力の源泉として人間が心の奥深くに抱き続けてきた、創造的機能としての「遊び」の精神をやきもののかたちでご鑑賞ください。

Pottery show will the living actual situation of the nature and the history in the area where that was produced. Pottery making related to people's living closely is performed actively at least Asia in particular, and the various specific culture that the living was abundantly reflected in the form and decoration has flourished. By this exhibition, we introduce the work that "tawamure", "warai" and "odoke" were expressed as a thing releasing a surplus of its exuberant vitality from the viewpoint of "art" that cultivated unreflecting aesthetic sensitivity of the human culture. Please appreciate spirit of the "art" as the creative function that man keeps holding in depth at the heart as a source of vitality by the shape of the pottery.

II > 1 > (3) 普通展示 浮世絵

小林清親—光線画の時代

展示期間 平成27年(2015)4月14日(火)～5月24日(日)

小林清親(1847～1915)は、明治9年(1876)から14年(1881)にかけて「光線画」と称する風景版画を発表し、明治の版画史に大きな足跡を残しました。

光線画は、光と影のさまざまな様相を繊細な感性で観察し、遠近や明暗、陰影を合理的に表現することでリアリティーを追求する新しい表現が特徴です。また文明開化がすすむ東京風景の中に、名残をとどめる江戸情緒が描かれ、どこかノスタルジーを感じさせます。今回は清親の没後100年を記念し、光線画の代表作をご紹介します。



橋口五葉

展示期間 平成27年(2015)5月26日(火)～7月5日(日)

橋口五葉(1881～1921)は、装丁そして商業デザインや装飾絵画の分野において才能を発揮しました。

また浮世絵版画の学術的な研究と復刻制作を行い、その成果を自らの版画作品として形にしています。

大正5年(1916)、版元の渡邊庄三郎のもとで、『浴場の女』を発表後、同7年(1918)には私家版『耶馬溪』を皮切りに次々と制作するも、3年後には41歳の若さで急逝しました。近代的な感覚で浮世絵版画のエッセンスを洗練させた五葉の作品は、いずれも版画史に残る傑作です。

今回は、画稿や没後に出版された版画作品を併せて展示し、五葉の構想した版画芸術をご紹介します。



戯画展

展示期間 平成27年(2015)8月29日(土)～9月27日(日)

美人、役者、風景、花鳥など、浮世(この世)のあらゆる事柄を描いた浮世絵はまた、戯画と呼ばれる一群の作品があります。これには風刺画、擬人画、影絵など様々なものが含まれています。戯画の作品は初期の時代から、七福神や年中行事、東海道などを題材に描かれてきていますが、とくに、天保の改革時、歌川国芳の作品によって人気が高まり、多くの作品が描かれるようになります。今回は、後期浮世絵の時代から幕末・明治の時代を中心に、機知とユーモアたっぷりの作品を紹介します。



月岡芳年 月百姿 I

展示期間 平成27年(2015)9月29日(火)～11月1日(日)

芳年は明治時代に活躍した最も知られる浮世絵師の一人です。とくに幕末から明治にかけての政情不安を意識させる残酷絵や西洋の合理的精神に基づいた写実的な歴史画や稗史絵の作品は芳年が描いた独自の世界といえます。

「月百姿」は晩年の代表作の一つで、明治18年(1885)から25年(1892)にかけて版行された百枚の大作です。日本や中国の物語、謡曲、稗史、逸話などから題材を得て、月のさまざまな姿を表現しています。



月岡芳年 月百姿Ⅱ

展示期間 平成27年(2015)11月3日(火)～12月6日(日)

月岡芳年(1839～1892)は、幕末明治という激動の時代を体現する浮世絵師のひとりです。不穏な事件が次々と起きた世情を反映する残酷絵や、近代的な写実性を備えた歴史画、稗史絵などを手掛けました。

「月百姿」は、明治18～25年(1885～1892)にかけて版行された百枚揃の大作で、芳年晩年の代表作です。日本や中国の物語、謡曲、稗史、逸話など、月にまつわるさまざまな主題を描き、いずれも静かな幻想の世界に哀調を帯びた詩情が漂います。



月岡芳年 月百姿Ⅲ

展示期間 平成27年(2015)12月8日(火)～平成28年(2016)1月17日(日)

芳年は明治時代に活躍した最も知られる浮世絵師の一人です。とくに幕末から明治にかけての政情不安を意識させる残酷絵や西洋の合理的精神に基づいた写実的な歴史画や稗史絵の作品は芳年が描いた独自の世界といえます。

「月百姿」は晩年の代表作の一つで、明治18年(1885)から25年(1892)にかけて版行された百枚の大作です。日本や中国の物語、謡曲、稗史、逸話などから題材を得て、月のさまざまな姿を表現しています。



春景色

展示期間 平成28年(2016)1月19日(火)～2月21日(日)

江戸の人々は詩樹を通じて神社・仏閣への参詣、名所見物などの物見遊山に出かけ、それらは暮らしのなかの楽しみとして定着していました。草木が芽を出し、さまざまな花が咲く春は、旧暦では一・二・三月にあたります。この季節には、梅や桜といった花の名所が人々で賑わい、浮世絵にも江戸や諸国の春景色、春の花を取り合せた美人画などが描かれています。今回は歌川広重の作品を中心に、浮世絵に描かれた春をお楽しみいただきます。



豊原国周の美人画

展示期間 平成28年(2016)2月23日(火)～3月27日(日)

豊原国周(1835～1900)は、幕末から明治時代に活躍した浮世絵師です。はじめ豊原周信について羽子板押絵の原図を描いたとされ、歌川国貞に入門した後、安政2年(1855)頃から国周と署名するようになりました。江戸っ子と伝えられる人柄のとおり、文明開化のさなかにも伝統的な様式の浮世絵を描き続けました。

「明治の写楽」と称され、役者絵の評価が高い国周ですが、美人画も数多く手がけています。今回は国周の美人画を取り上げ、初期の作品から代表的な揃物を含む31点をご紹介します。



II > 1 > (3) 普通展示 東洋陶磁

古萩

展示期間 平成27年(2015)4月14日(火)～7月5日(日) 展示室2

「一楽、二萩、三唐津」と謳われ、佗数寄に合う茶の湯の具足として、高い声価を得てきた萩焼の茶碗。高麗茶碗を生みだした朝鮮半島由来の作陶技術を伝え、江戸時代を通して、萩藩御用窯で製作された萩焼の精品は、藩主の御遺物として諸侯への進物や家臣への下賜に用いられるなど、限られた階層とその周辺に流通しました。

本展では、御用窯を中心に製作された江戸時代の萩焼を「古萩」ととらえ、多様性に富んだその豊かな美意識を、伝世の茶碗や巧みをこらした細工物などで紹介します。

緑釉陶器

展示期間 平成27年(2015)8月29日(土)～12月6日(日) 展示室2

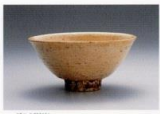
緑釉陶器とは、緑色の釉薬がかかった陶器のことを言い、鉛または木灰を主な原料とする釉薬に、酸化銅を配合することで緑色にしています。古くは中国・前漢時代において青銅器に代わる明器として流行しました。唐時代以降は、ひとつの器に褐色や藍色、緑色など複数の色釉をかけた三彩が登場し、その一色のみをかけた単色釉陶器として緑釉陶器が作られました。器面を彩る色釉のなかでも緑釉に注目し、そのさまざまな表情をご紹介します。

朝鮮時代のやきもの

展示期間 平成27年(2015)12月8日(火)～平成28年(2016)3月27日(日) 展示室2

朝鮮時代(1392～1910年)の社会は、文班(文官)と武班(武官)のいわゆる「兩班」が、王のもと政治の中心にいた時代でした。彼らの思想の基盤には仁や礼を重んじる儒教があり、そのため様々な儀式が行われました。また、風流を解することも重視され、書画や詩歌、管弦などの遊びも愛好されました。このように彼らが築いた文化では、様々な場面に合わせたやきものが使われました。儀式で使われる器、書画や詩歌などに親しむ際には硯や水滴、筆筒などの文房具が使われ、この時代に作られたやきものの特徴となっています。朝鮮時代を代表する粉青沙器や白磁をはじめ、青花磁器、鉄釉、瑠璃釉、高麗茶碗など、当時の社会や文化を色濃く映した多種多様な朝鮮時代のやきもの魅力を紹介します。

東洋陶磁展示 展示室2
古萩
展示期間 平成27年4月14日(火)～7月5日(日)



「一楽、二萩、三唐津」と謳われ、佗数寄に合う茶の湯の具足として、高い声価を得てきた萩焼の茶碗。高麗茶碗を生みだした朝鮮半島由来の作陶技術を伝え、江戸時代を通して、萩藩御用窯で製作された萩焼の精品は、藩主の御遺物として諸侯への進物や家臣への下賜に用いられるなど、限られた階層とその周辺に流通しました。

本展では、御用窯を中心に製作された江戸時代の萩焼を「古萩」ととらえ、多様性に富んだその豊かな美意識を、伝世の茶碗や巧みをこらした細工物などで紹介します。

東洋陶磁展示 展示室2
緑釉陶器
展示期間 平成27年8月29日(土)～12月6日(日)



緑釉陶器とは、緑色の釉薬がかかった陶器のことを言い、鉛または木灰を主な原料とする釉薬に、酸化銅を配合することで緑色にしています。古くは中国・前漢時代において青銅器に代わる明器として流行しました。唐時代以降は、ひとつの器に褐色や藍色、緑色など複数の色釉をかけた三彩が登場し、その一色のみをかけた単色釉陶器として緑釉陶器が作られました。

器面を彩る色釉のなかでも緑釉に注目し、そのさまざまな表情をご紹介します。

東洋陶磁展示 展示室2
朝鮮時代のやきもの
展示期間 平成27年12月8日(火)～平成28年3月27日(日)



朝鮮時代(1392～1910年)の社会は、文班(文官)と武班(武官)のいわゆる「兩班」が、王のもと政治の中心にいた時代でした。彼らの思想の基盤には仁や礼を重んじる儒教があり、そのため様々な儀式が行われました。また、風流を解することも重視され、書画や詩歌、管弦などの遊びも愛好されました。このように彼らが築いた文化では、様々な場面に合わせたやきものが使われました。儀式で使われる器、書画や詩歌などに親しむ際には硯や水滴、筆筒などの文房具が使われ、この時代に作られたやきもの特徴となっています。

朝鮮時代を代表する粉青沙器や白磁をはじめ、青花磁器、鉄釉、瑠璃釉、高麗茶碗など、当時の社会や文化を色濃く映した多種多様な朝鮮時代のやきもの魅力を紹介します。

II > 2 > (3) 普通展示 陶芸 1

陶一生命の讃歌

展示期間 平成27年(2015)8月29日(土)～平成28年(2016)3月27日(日) 展示室7

ものをつくるという行為には、有限の生を超えて永続する、無限の存在への祈りが込められています。とすれば、創造のいとなみとは、移ろいやすい日常の生の矛盾を深々と受け止めながら、ゆるぎない存在である精神の象徴を具体化する、果てしない自己探究の過程といえるでしょう。

今回は、変転する現実を見つめ直すなかで、人間生命の矛盾の底流をなす生〈エロス〉と死〈タナトス〉という対称的な欲動を自己の内奥に見つめて優雅な死の形相を夢想した、十二代三輪休雪の《古代の人・王墓／王妃墓》と、社会経済に起因する環境破壊を批判的に捉えて輝くばかりの生命の行く末に警鐘を鳴らした、里中英人の《赤ちゃんの帽子》を紹介します。陶造形によって表現された生命の讃歌に耳を傾けてみましょう。

陶芸展示 展示室7

陶一生命の讃歌

展示期間 平成27年(2015)8月29日(土)～平成28年(2016)3月27日(日)



里中英人 《赤ちゃんの帽子》(ヒメヨシト) 昭和48年(1973)

ものをつくるという行為には、有限の生を超えて永続する、無限の存在への祈りが込められています。とすれば、創造のいとなみとは、移ろいやすい日常の生の矛盾を深々と受け止めながら、ゆるぎない存在である精神の象徴を具体化する、果てしない自己探究の過程といえるでしょう。

今回は、変転する現実を見つめ直すなかで、人間生命の矛盾の底流をなす生〈エロス〉と死〈タナトス〉という対称的な欲動を自己の内奥に見つめて優雅な死の形相を夢想した、十二代三輪休雪の《古代の人・王墓／王妃墓》と、社会経済に起因する環境破壊を批判的に捉えて輝くばかりの生命の行く末に警鐘を鳴らした、里中英人の《赤ちゃんの帽子》を紹介します。陶造形によって表現された生命の讃歌に耳を傾けてみましょう。

2>1>(3)普通展示 陶芸・工芸2

工芸展示 山口県無形文化財の工芸―萩焼・赤間硯・金工―

展示期間 平成27年(2015)6月16日(火)～10月4日(日) 展示室8

萩焼と赤間硯の工芸技術は、県内の無形文化財のうち重要なものとして山口県教育委員会から山口県指定無形文化財に指定され、現在は6名の個人が当該無形文化財の保持者(萩焼5名、赤間硯1名)に認定されています。また、昨年10月に国の重要無形文化財「彫金」の保持者(人間国宝)に認定された、山本晃氏も国の認定を受けるまでは山口県指定無形文化財の金工の保持者でした。

このたびは、本県において伝統的な工芸技術として昭和31年度の認定から現在にいたるまで、認定を受けたすべての山口県指定無形文化財の保持者14名の作品30点を展示します。伝統的な手技が生み出す作品の美質は、作り手の長年にわたる修練と創意工夫の結晶であるとともに、本県における工芸技術の歴史が新たな地平を拓くための芸術的可能性を明らかにするものです。伝統を受け継ぎながらもそれを現代のかたちへと革新する力強い造形意識の高揚をこれらの作品で堪能いただければ幸いです。



佐藤典克展

現在形の陶芸萩大賞展Ⅲ 大賞受賞者展

展示期間 平成27年(2015)10月6日(火)～平成28年(2016)1月17日(日) 展示室8

平成25(2013)年度に公募された「現在形の陶芸 萩大賞展Ⅲ」において、《縫器》でみごとに大賞に輝いた、佐藤典克(昭和49年<1974>生まれ)の近作を発表する個展です。

東京藝術大学大学院陶芸専攻を終了後、平成15年(2003)から神奈川県相模原市に独立開業して本格的な作陶生活に入ったというかれは、日本伝統工芸展をはじめ国内外の著名な公募展やグループ展への積極的な出品と発表などを通して、精力的に制作活動を展開している気鋭の若手作家の一人です。大きく開いた口縁部と舟形に面取りした脚部の形式、そして純白の磁胎の柔らかな肌合いに共通性がある《縫》シリーズは、行動的なこの作家の造形思考の斬新性がよく現れた器だといえるでしょう。

佐藤は、轆轤回転の遠心力が立ち上げる均衡ある対称性のみにかたちの美質を求めめるのではなく、轆轤で立ち上げた筒形の器胎に磁土を肉付けしたり削ったりしながらかたちの均衡を整える手づくねという技法を併用しています。手業を重ねることで生じる微かなムーブメント(動勢)でかたちの美質を探るといふ、このまったくユニークな制作態度が、シリーズのタイトル《縫》という名辞を、文字通り立体的な構造美として実感させる力強い器物造形に結晶させているのです。

大賞受賞者を顕彰する本展では、受賞作《縫器》と一昨年の公募展以降に制作された新作を紹介します。この作家が自身のスタイルをどのように発展させていこうとしているのかをご覧いただき、今後、造形的にも技術的にも大きく飛躍して成長していくことを、皆様とともに見守っていきたいと思います。



茶陶萩―伝統の革新―

展示期間 平成28年(2016)1月19日(火)～5月8日(日) 展示室8

茶事に必要な各種の道具類は茶道具と総称され、そのうち陶磁製のものが茶陶と呼ばれます。










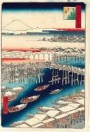


この呼称は、昭和10年代(1935～44)から用いられ始め、美術展覧会や出版物のタイトルとして、昭和30年代(1955～64)以降に定着した用語です。その背景には、室町時代から桃山時代にかけて隆盛した、茶の湯と美術・工芸の展開を関連づけて再評価しようとする気運と、その芸術性を現代に再生しようとする作陶意識の高揚がありました。

さて、萩焼400年の伝統は、佗数寄の具足として高い声価を獲得してきた歴史に培われてきました。とくに萩藩御用窯で焼造された茶碗は、近代以降も「一楽、二萩、三唐津」と謳われるほど、その品格が茶の湯の世界で広く認められてきました。一方で、それは開業の草創期から当時流行の高麗茶碗の造形的特徴をアレンジし、また古田織部好みの「ひずみ」の美意識を取り込むなど、たんなる写し(模倣)から脱して独創の造形表現を志向する、革新的な造形思考の成果であったといえるでしょう。

今回は、独自の気品と風格を備えた古萩(近世期の萩焼)から、固有の素材と技術のうちに造形的本質を追究しながら伝統を受け継いできた近代的個人作家の作品まで、表現力豊かな茶陶を通観します。



Ⅱ>1>(4) 特選鑑賞室展示

4月	歌川広重	名所江戸百景 堀切の花菖蒲	大判錦絵	
5月	歌川広重	名所江戸百景 駒形堂吾孀橋	大判錦絵	
6月	歌川広重	名所江戸百景 亀戸天神境内	大判錦絵	
7月	二代歌川広重	名所江戸百景 赤坂桐畑雨中夕けい	大判錦絵	
8月	歌川広重	名所江戸百景 両国花火	大判錦絵	
9月	歌川広重	名所江戸百景 猿わか町よるの景	大判錦絵	
10月	歌川広重	名所江戸百景 よし原日本堤	大判錦絵	
11月	歌川広重	名所江戸百景 浅草田甫酉の町詣	大判錦絵	
12月	歌川広重	名所江戸百景 深川洲崎十万坪	大判錦絵	
1月	歌川広重	名所江戸百景 日本橋雪晴	大判錦絵	
2月	歌川広重	名所江戸百景 廓中東雲	大判錦絵	
3月	歌川広重	名所江戸百景 隅田川水神の森真崎	大判錦絵	

II > 1 > (6) 貸館展示

第38回 山口伝統工芸展

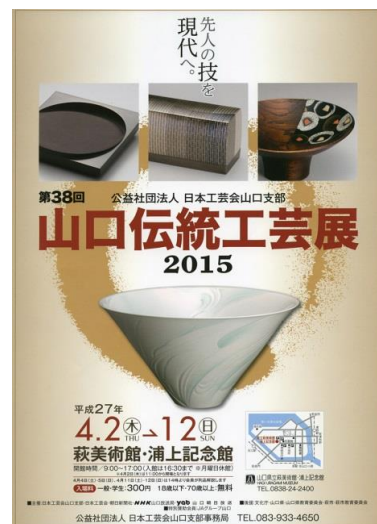
主催 日本工芸会山口支部、日本工芸会、朝日新聞社、NHK山口放送局、y a b山口朝日放送
後援 文化庁、山口県、山口県教育委員会、萩市、萩市教育委員会
特別賛助会員 J Aグループ山口

会期 4月2日(木)～4月12日(日)
会場 本館2階第6, 5, 4, 3展示室

関連行事

○会員による列品解説

日時 4月4日(土)、5日(日)、11日(土)、12日(日) 14:00～



2015年NHK大河ドラマ特別展「花燃ゆ」

主催 山口県立萩美術館・浦上記念館
2015年NHK大河ドラマ特別展
「花燃ゆ」山口展実行委員会
(山口県、山口県教育委員会、萩市、山口県観光連盟)
NHK山口放送局
NHKプラネット中国
山口新聞社

協賛 ハウス食品グループ本社、みずほ銀行
会期 4月18日(土)～5月24日(日)
会場 本館2階第6, 5, 4, 3展示室

関連行事

○花燃ゆ展プレミアム講座(歴史講座)

日時 4月19日(日)、26日(日)、5月9日(土)、10日(日)、16日(土) 14:00～15:30
会場 講座室

○花燃ゆミニ展示ガイド(見どころ解説)

日時 4月25日(土)、5月10日(日)、16日(土) 10:30～11:00
会場 講座室



Ⅱ>2>(1) 記念講演会

回	日時	講師(敬称略)	所属・職	演題	聴講者数
1	6月6日(土) 13:30~15:00	荒川正明	学習院大学教授	伊万里染付大皿の魅力をたずねて	59
2	8月29日(土) 14:00~15:30	浅野秀剛	大和文華館館長 あべのハルカス美術館館長	立原位貫の浮世絵の復刻	55
3	10月10日(土) 13:30~15:00	唐澤昌宏	東京国立近代美術館 工芸課長	(記念鼎談)	79
		中島宏	陶芸家 重要無形文化財「青磁」保持者	青磁に魅せられて	
		高垣篤	陶芸家		
4	12月12日(土) 13:30~15:00	李娉	山東博物館書画部館員	明清服飾のはなやぎ-彩と繻のコスモロジー	37

第1回は、「図変り大皿の世界 伊万里染付の美展」記念講演会

第2回は、「木版画家 立原位貫展」記念講演会

第3回は、「青磁のいま展」記念鼎談

第4回は、「シリーズ山東文物 中華の服飾芸術展」記念講演会

美術館ウィークの開催

山口県立美術館(山口市)と山口県立萩美術館・浦上記念館の2つの県立美術館が所蔵する優れたコレクションの魅力を広く県民に紹介するとともに美術館に親しむきっかけ作りとして「日本の美・和」をコンセプトにコレクションを中心とする特別展示や地域と連携した関連イベントを実施。



KŌGEI WEEK2015

7月28日(火)から8月8日(土)までの日程で開催された第23回世界スカウトジャンボリー(23WSJ)を記念して、より身近に「やきもの」と「浮世絵」を感じてもらうための特集展示や体験型ワークショップを開催。

開催期間 8月1日(土)～8月5日(水)

1. 特集展示 やきものと浮世絵に遊ぶ

会 期 7月7日(火)～8月16日(日)
会 場 展示室1・2



2. 体験型ワークショップ(一般参加プログラム)

(1)わたしの“ちよるる”一铸込み成形と上絵付け体験

日 時 ①8月2日(日)10:00～12:00、②3日(月)13:00～15:00
場 所 陶芸館多目的室
対 象 小学生以上
講 師 禹寛壕氏(韓国・弘益大学校美術大学教授)
参加者 ①40名、②40名

(2)わたしとポチ袋

日 時 ①8月2日(日)10:00～12:00、②3日(月)13:00～15:00
場 所 本館ロビー
対 象 小学生以上
講 師 ①山崎文代氏((有)伊勢一商店) ②学芸員
参加者 ①40名、②28名

(3)わたしも“北斎”－浮世絵版画の摺り入門

日 時 ①8月2日(日)13:30～16:00、②3日(月)10:00～12:30

場 所 エントランスホール

対 象 小学生以上

講 師 渡邊章一郎氏、林勇介氏((株)渡邊木版美術画舗)

参加者 26名

3. 体験型ワークショップ(23WSJプログラム)

(1)わたしの“ちよるる”－鋳込み成形と上絵付け体験

日 時 8月1日(土)、4日(火)、5日(水)

①10:00～10:30・11:30～12:00

②13:00～13:30・14:30～15:00

場 所 陶芸館多目的室

講 師 禹寛壕氏(韓国・弘益大学校美術大学教授)

参加者 228名

(2)わたしとポチ袋

日 時 ①8月1日(土)10:30～11:00・13:30～14:00

②8月4日(火)10:30～11:00・13:30～14:00

③8月5日(水)10:30～11:00・13:30～14:00

場 所 本館ロビー

講 師 ①山崎文代氏((有)伊勢一商店) ②, ③学芸員

参加者 228名

II > 2 > (3) 地域派遣型アウトリーチ活動

収蔵品を活用したアウトリーチ外部施設展示を通じた戦略的美術館活動

ふだん芸術文化に触れる機会の少ない人々に対して、働きかけをおこなう教育普及活動をアウトリーチという。

美術館やギャラリーで本県の伝統工芸や近現代陶芸を鑑賞する機会が少ない地域の住民を対象に、地域派遣型事業のアウトリーチを実施して、芸術文化を享受する機会を広げるとともに、地域で制作する側の創作意欲の向上にも寄与する。

内容

岩国錦帯橋空港ビル 1 階ロビーでの作品展示

展示作品

- ① 10月27日(火)～11月23日(月・祝)
三輪休雪《卑弥呼の書》1991年 K00022
- ② 11月25日(水)～12月27日(日)
三輪和彦《花冠 No.33》2003年 K00381
- ③ 12月29日(火)～1月24日(日)
三輪休和《萩長寿楽置物》1928年 K00308
- ④ 1月26日(火)～2月21日(日)
石橋裕史《彩刻磁鉢》2007年 K00385
- ⑤ 2月23日(火)～3月21日(月・祝)
加藤清和《藍三彩鉢》2012年 K00553
- ⑥ 3月23日(水)～4月24日(日)
大和保男《炎彩扁壺・爽風》2010年 K00541



Ⅱ>2>(4) 各種イベント

特別展示関連イベント

特別展示	イベントタイトル	開催日	会場	参加者数	内容
伊万里染付の美展	本格的！染付！ 「染付体験」	7月18日(土) 9:30~12:00 13:30~16:00	陶芸館多目的室	30名	昔から受け継がれる技法を使い本格的な作品を作る。 講師：松尾優子氏(陶芸家)
木版画家立原位貴展	伝統画材ワークショップ		陶芸館多目的室		浮世絵版画に使われた伝統的な画材について、各分野の第一人者による解説講座 司会 降旗千賀子氏 講師 膠：上田邦介氏、富澤千砂子氏 和紙：池加津夫氏 青色の色素：森芳範氏、落合雪野氏
	(1) 膠	8月30日(日) 9:30~12:00		23名	
	(2) 和紙	8月30日(日) 13:30~15:30		30名	
	(3) 青色の色素 藍・青花	8月31日(月) 9:30~12:00		23名	
青磁のいま展	わたしの“ちよるる” 鑄込み成形と上絵付け	①10月17日(土) ②11月21日(土) 10:00~11:30 13:30~15:00	陶芸館多目的室	60名	山口県PR本部長“ちよるる”の「型」づくりと「絵付け」に挑戦してわたしだけの「ちよるる」を作る
中華の服飾芸術展	中華を着てみよう！ コスプレ写真撮影コーナー	12月12日(土)~ 1月17日(日) ※展覧会会期中	エントランスホール	246名	中華風の民族衣装を着用しての写真撮影コーナーの設置。

指定管理者自主企画イベント

イベントタイトル	開催日	会場	参加者数	内容
アート・フェスティバル2015	8月9日(日) 9:00~16:30	エントランスホールほか	1,409名	〈美術館まちなか交流促進事業〉 アートを活用した地域づくりや交流促進を目的とした地域密着型アートイベントを開催。 神楽舞、段ボール迷路、缶バッチづくりなどのクラフト
月夜のナイトミュージアム	①10月10日(土) ②10月11日(日) 18:30~20:00	本館2階展示室	54名	青磁のいま展の見どころを担当学芸員が解説。
クイズで知る山口県立萩美術館・浦上記念館！	11月1日(日)~ 11月7日(土)	館内	515名	美術館クイズに正解すれば美術館オリジナルグッズをプレゼント。
秋のミュージアムコンサート	11月3日(火・祝) 15:00~15:45	エントランスホール	110名	箏とピアノによる県立美術館(山口市)との2館リレーコンサート。
版画技法！ ドライポイントでつくる年賀状！	12月19日(土) ①10:00~12:00 ②14:00~16:00	エントランスホール	38名	ドライポイント技法による年賀状の作成。
アート年賀状2016	1月2日(月)~ 1月31日(日)	エントランスホール	展示 313点	自由に表現された手作り年賀状(オリジナル部門とぬりえ部門)を一般公募

お正月は萩美術館・浦上記念館へ	1月2日(月)～ 1月3日(火)			
(1)新春ミュージアムコンサート				
①太鼓演奏	1月2日(土) ①11:00～12:00 ②14:00～15:00	本館玄関前	333名	大板山たたら太鼓の実演会
②箏曲演奏	1月3日(日) ①11:00～12:00 ②14:00～15:00	エントランスホール		箏好会(箏曲愛好会)の演奏会
(2)美術館で運だめし?!		エントランスホール		くじ引き
(3)お正月伝統遊び	1月2日(月)～ 1月3日(火)	エントランスホール		けん玉、福笑い、すごろくなど懐かしい遊びを体験
(4)新成人企画				新成人普通展示入館無料

Ⅱ>2>(5) ギャラリー・トーク

ギャラリー・トーク

普通展示の開催に合わせた担当学芸員による列品解説。

原則として、毎月の第2・4土曜日の11:00~12:00に実施

	実施日	区分	展覧会名称	担当者
1	4月11日	陶 芸	染付	市来真澄
2	4月25日	浮世絵	小林清親-光線画の時代	湊田恵子
3	5月 9日	東洋陶磁	古萩	市来真澄
4	5月23日	陶 芸	萩焼の現代	石崎泰之
5	6月13日	浮世絵	橋口五葉	湊田恵子
6	6月27日	東洋陶磁	古萩	市来真澄
7	7月11日	工 芸	山口県無形文化財の工芸-萩焼・赤間硯・金工-	石崎泰之
8	7月25日	浮世絵	やきものと浮世絵に遊ぶ 浮世絵編	鈴木浩平
9	8月 8日	東洋陶磁	やきものと浮世絵に遊ぶ やきもの編	石崎泰之
10	9月12日	浮世絵	戯画展	鈴木浩平
11	9月26日	東洋陶磁	緑釉陶器	市来真澄
12	10月24日	浮世絵	月岡芳年 月百姿Ⅰ	湊田恵子
13	11月14日	陶 芸	陶-生命の讃歌	石崎泰之
14	11月28日	浮世絵	月岡芳年 月百姿Ⅱ	吉田洋子
15	12月26日	浮世絵	月岡芳年 月百姿Ⅲ	鈴木浩平
16	1月 9日	東洋陶磁	朝鮮時代のやきもの	市来真澄
17	1月23日	浮世絵	春景色	湊田恵子
18	2月13日	陶 芸	茶陶萩-伝統の革新-	石崎泰之
19	2月27日	浮世絵	豊原国周の美人画	鈴木浩平
20	3月12日	東洋陶磁	朝鮮時代のやきもの	市来真澄
21	3月26日	陶 芸	陶-生命の讃歌	石崎泰之

Ⅱ>2>(6) 季刊誌「萩」

No.75 (平成27年4月15日発行)

「伊万里？染付？大皿の魅力とは？」市来真澄
「「図変り」大皿の世界 伊万里染付の美」展
「2015年NHK大河ドラマ特別展 花燃ゆ」
普通展示（浮世絵・東洋陶磁・陶芸）案内
特選鑑賞室案内
平成27年度 年間展示案内
県立美術館メンバーズクラブ会員募集



No.76 (平成27年7月15日発行)

「イメージの豊饒へー井上雅之「初形よりー花型」に寄せて」石崎泰之
「特別展示 木版画家 立原位貴ー江戸の浮世絵に真似ぶ 展覧会によせて」立原位貴
「木版画家 立原位貴ー江戸の浮世絵に真似ぶ」展
「青磁のいまー受け継がれた技と美 南宋から現代まで」展
「第23回世界スカウトジャンボリー開催記念 特集展示 やきものと浮世絵に遊ぶ」
KÔGEI WEEK 2015ー一般参加プログラム参加者募集のお知らせ
普通展示（陶芸・浮世絵・工芸）案内



No.77 (平成27年10月15日発行)

「福島善三の中野月白瓷匏文鉢ー「青磁のいま」展の開催に寄せて」石崎泰之
「絢爛豪華 中華の服飾芸術展の見どころ」柿添康平
普通展示（浮世絵・東洋陶磁・陶芸）案内



No.78 (平成28年1月15日発行)

「茶の湯における萩焼の魅力について」横山志野
平成27年度の新収蔵資料について
普通展示（浮世絵・東洋陶磁・陶芸）案内



Ⅱ＞2＞(7) 博物館実習

期 間	人数	実習生の在籍校
8月1日～8月7日 (7日間)	1名	山口県立大学

II > 3 館蔵品貸出利用状況

展覧会名称 10周年特別展 「THE TAMBA（秋）－秋麗に古丹波を愛でる－」
 展覧会開催館名 兵庫陶芸美術館
 貸出年月日 2015/9/1～2015/12/25
 貸出先 兵庫陶芸美術館

生産窯/作家名	作 品 名	員数	時代/制作年	館蔵品番号
不詳	丹波壺	1口	室町	T00546

展覧会名称 萩焼展 山口県立萩美術館・浦上記念館コレクション展
 展覧会開催館名 アーツ前橋
 貸出年月日 2015/7/13～2015/9/28
 貸出先 群馬県前橋市

生産窯/作家名	作 品 名	員数	時代/制作年	館蔵品番号
不詳	萩檜垣文筆洗形割高台茶碗	1口	江戸前期	T00473
不詳	萩割高台茶碗	1口	江戸前期	T00501
不詳	萩割高台茶碗	1口	江戸	T00484
不詳	萩割俵形茶碗	1口	江戸前期	T00487
不詳	萩三島写茶碗 銘 「椎葉」	1口	1684年	T00502
三輪休雪(初代)	萩赤楽茶碗	1口	1703年	T00489
不詳	萩茶碗 銘 立田	1口	江戸中期	T00477
不詳	萩井戸形茶碗	1口	江戸中期	T00488
三輪雪山(8代)	萩編笠水指	1口	江戸	T00500
三輪喜楽(6代)	萩牡丹唐草文手洗	1口	1824年	T00478
三輪喜楽(6代)	萩飛獅子置物	1口	江戸後期	T00492
12代坂倉新兵衛	萩武蔵野写茶碗	1口	大正～昭和中期	K00258
三輪壽雪	白萩手桶花入	1口	1965年	K00363
三輪休和(10代休雪)	萩編笠水指	1口	1975年	K00274
三輪休和(10代休雪)	萩筆洗切茶碗	1口	1975年	K00276
12代田原陶兵衛	萩灰被耳付花入	1口	1979年	K00273
玉村登陽	萩茶碗	1口	1997年	K00333
大和吉孝	萩井戸形茶碗	1口	1999年	K00373
兼田昌尚	WORK'04 峻	1口	2004年	K00034
三輪壽雪(11代休雪)	鬼萩花冠高台茶碗 銘 命の開花	1口	2003年	K00161
金子司	種々 (組作品、3,000本)	1組	2008年	K00535

展覧会名称 山口県の工芸
 展覧会開催館名 山口県立美術館
 貸出年月日 2015/12/22～2016/3/27
 貸出先 山口県立美術館

生産窯/作家名	作 品 名	員数	時代/制作年	館蔵品番号
14代坂倉新兵衛	萩水指	1口	1978年	K00260
三輪休和(10代休雪)	萩茶碗 蒼穹	1口	1965年頃	K00331
三輪壽雪(11代休雪)	鬼萩割高台茶碗 銘 大磐石	1口	1995年	K00150
吉賀大眉	白釉壺(花器)(雪層)	1口	1962年	K00291
坂田泥華	萩茶碗	1口	1979年	K00353
山本晃	切嵌象嵌接合せ箱 静唱	1口	2008年	M00009
堀尾卓司	赤間硯 双体(石の柄)	1口	1970年代	A00007
堀尾卓司	赤間硯 瓜硯	1口	1985年	A00009

Ⅱ＞4 寄贈作品

〔東洋陶磁〕

	作品名	点数	制作者名	製作年代元号	寄贈者	館藏品番号
1	青花双鶏文皿	1	不詳	中国明時代	浦上敏朗	T00565

〔金工〕

	作品名	点数	制作者名	製作年代元号	寄贈者	館藏品番号
1	鍛赤銅壺「花と龍」	1	山口宏	1995年	山口フクエ	M00013
2	鍛赤銅壺「風韻」	1	山口宏	1997年	山口フクエ	M00014
3	鍛赤銅壺「風の唄」	1	山口宏	1999年	山口フクエ	M00015
4	鍛赤銅象嵌花器「風紗」	1	山口宏	1999年	山口フクエ	M00016
5	鍛赤銅壺「海峡」	1	山口宏	2000年	山口フクエ	M00017
6	鍛赤銅重線象嵌幾何文壺	1	山口宏	2003年	山口フクエ	M00018
7	鍛赤銅重線象嵌壺「鈴しぐれ」	1	山口宏	2004年	山口フクエ	M00019
8	鍛銅象嵌花器「糸車」	1	山口宏	2005年	山口フクエ	M00020
9	鍛赤銅重線象嵌幾何文壺	1	山口宏	2005年	山口フクエ	M00021
10	鍛赤銅重線象嵌壺「群唱」	1	山口宏	2008年	山口フクエ	M00022
11	鍛銅くずし角文花入「土の塔」	1	山口宏	2009年	山口フクエ	M00023
12	鍛銅線象嵌壺「立夏」	1	山口宏	2009年	山口フクエ	M00024
13	鍛銅象嵌花器「東雲」	1	山口宏	2011年	山口フクエ	M00025

〔その他〕

	作品名	点数	制作者名	製作年代元号	寄贈者	館藏品番号
1	そらみみそら [五月雨御殿]	1	宮永愛子	2014年	宮永愛子	O00021

Ⅱ＞5 購入作品

〔浮世絵・近現代版画〕

	作者名	作品名	判型	形態	点数	館蔵品番号
1	小林清親	東京小梅曳船夜図	横大判	錦絵	1	U05521
2	歌川豊広	梅に鷹	間短冊判 堅2枚続	錦絵	1	U05522
3	鳥居清満	尾上菊五郎梅幸 ひたち小はぎ	細判	紅摺絵	1	U05523
4	鳥居清満	市村羽左衛門 蜘蛛のばけ子ぞう	細判	紅摺絵	1	U05524

〔陶磁・陶芸〕

	作品名	点数	生産地域	時代区分	館蔵品番号
1	青花牡丹文盤	1	ベトナム	黎期	T00562
2	絵唐津葦文鉢	1	日本	桃山時代	T00563
3	備前種壺耳付水指	1	日本	桃山～江戸初期	T00564
4	Self-portrait	1	韓国	2013年	K00561
5	碧釉漣文壺	1	日本	2014年	K00562

Ⅲ 入館者数

No	展 覧 会 名	入館者	日数	平均	実 施 期 間
1	第38回山口伝統工芸展 (貸館)	1,186	10	118	H27.04.02 ~ 04.12
2	2015年NHK大河ドラマ特別展「花燃ゆ」 (貸館)	14,104	34	414	H27.04.18 ~ 05.24
3	「図変り」大皿の世界 伊万里染付の美	6,704	66	101	H27.06.06 ~ 08.16
4	木版画家 立原位貴 —江戸の浮世絵に真似びー	3,146	28	112	H27.08.29 ~ 09.27
5	青磁のいま ～受け継がれた技と美 南宋から現代まで～	4,699	48	97	H27.10.10 ~ 11.29
6	シリーズ山東文物9 中華の服飾芸術	2,606	37	70	H27.12.12 ~ H28.01.17
7	普通展示	29,595	314	94	H27.04.01 ~ H28.03.31
8	各種イベント	2,696	21	128	H27.04.01 ~ H28.03.31
	合計	64,736			

Ⅳ 組織

名誉館長	浦上敏朗
館長	二井関成
学芸顧問	鈴木浩平
副館長	藤崎三紀夫
学芸専門監	石崎泰之
主査	藤田寛之
(兼)学芸課長	石崎泰之
主任	吉田洋子
主任	市来真澄
学芸員	淵田恵子
学芸員	柿添康平